

3 会場計画

(1) 基本的な考え方

愛知万博の会場予定地は、元来、愛知・名古屋東部丘陵に見られる典型的な谷地である。海上地区は、花崗岩と砂礫層との接点に位置し、一帯の森林は古くから過度に伐採されたため荒廃地となったが、その後の治山事業などにより、自然環境が回復しつつある。青少年公園地区は、複雑な地形を巧みに活用したスポーツ交流施設と児童遊園施設、そして森林など自然との交遊ゾーンとして利活用されている。

海上地区の会場計画の考え方

海上地区は、起伏に富んだ敷地を会場とするため、地形に沿った造成を行う。主要施設は、裸地部分への配置を行い、既存地勢を読み取った計画として自然への影響を少なくする。また、海上の森全体を将来、人と自然のかかわり合いを学び、体験することができる地域として創り上げていくための拠点とする視点から、それぞれの施設のあり方を検討する。

青少年公園地区の会場計画の考え方

青少年公園地区は、比較的高度に活用されている北西部と、希少種等の生物や森林を多く残す南東部に大別できる。外縁部をほぼ一周する約4kmの道路に沿って回遊すると、高低差が大きく変化に富んだ地形の各所に水面が存在し、まとまった平場の確保は困難であることがわかる。

反面、青少年公園地区は多数の来場者を迎え入れる必要があり、緑地や地盤への影響を最小限に止めつつも国際博覧会として所要の施設配置及び動線確保等の要件を満足するための計画が必要である。

したがって、まず希少種の生物がまとまって分布する地区や森林地区を回避し、北西部を中心に利活用を図ることが必要になる。また、外から会場へのアクセスルートの制約から北部及び西部にゲートを設けることが適当である。以上のことを踏まえ、散在する活用可能な敷地相互を、安全で快適な動線で連結させることを方針の中心に据え計画を行う。

会場地

